

研究・調査報告書

報告書番号	担当
185	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Association between alcohol intake and domain-specific cognitive function in older women. 高齢女性における領域固有の認知機能と飲酒との関連	
執筆者	
Espeland MA, Coker LH, Wallace R, Rapp SR, Resnick SM, Limacher M, Powell LH, Messina CR; Women's Health Initiative Study of Cognitive Aging.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Neuroepidemiology. 2006; 27(1): 1-12.	
キーワード	
認知、エタノール、女性、健康	
要旨	
<p>適量飲酒は良好な認知機能と関連している可能性があるが、この関連はどの認知領域を取り上げるかによって異なるであろう。そこで本研究では、ホルモン療法の無作為化比較試験である Woman's Health Initiative (WHI) 研究に参加した 65-80 歳の女性を対象に、付随的研究として、毎年の標準化された全般的認知機能テストによる WHI 記憶調査 (平均追跡年数は 4.5 年)、および領域固有の認知機能評価による認知的老化 WHI 研究 (平均追跡年数 1.7 年) を行った。その結果、非飲酒女性と比較して、中程度飲酒 (エタノール換算で 30g/日以下) の女性は全般的認知機能がより良好であり、また、飲酒習慣のある女性は (どのような飲酒習慣であるかにかかわらず) 言語認識・言語の流暢さ・図形記憶・言語記憶・注意力・作業記憶・動作速度において、統計学的に有意に良好な値を示したが (全て $p < 0.05$)、空間能力では有意差は認めなかった ($p = 0.36$)。共変量を調整後、エタノール摂取量が 10g/日以上 of 女性は非飲酒女性と比べて、言語認識が 5.7% ($p < 0.001$)、言語の流暢さのうちの文字の流暢さが 5.7% ($p = 0.004$) 高かった。本研究の結果から、中程度の飲酒はやや良好な認知機能と関連していることが示された。この関連は、言語認識と文字の流暢さでより強かった。しかしながら、本研究は観察研究のため、測定していない交絡要因の影響は除外できていない。</p>	